

日本労働ペンクラブ・労働遺産申請書

(申請者：労働遺産PT)

申請の対象	
○登録内容： 戦前実業家の労働理想主義による労働環境改善と社会貢献（大原孫三郎等）	
○認定対象 ① 遺物・資料 工場の作業環境改善と労務管理近代化での一連の遺物・資料（倉紡記念館） ② 資料・遺構 「労研」と「大原社研」創設期の資料と遺構等（倉紡記念館、大阪府、愛染園） ※個々の認定対象は下欄「申請の趣旨」に記載 ※認定要件 労働遺産としての遺物・遺構、活動資料、記念碑等	
○認定対象の所有者・所蔵者等 ・倉紡記念館：岡山県倉敷市本町7-1 所有者：倉敷紡績株式会社：大阪府中央区久太郎町2-4-31 ・大原社研の大阪時代のプレートと記念碑：大阪府夕陽丘庁舎 大阪市天王寺区伶人町2 ・愛染園創立100周年記念碑 大阪市浪速区日本橋東3-1-23 所有者：大阪市浪速区、製作者：愛染園	
○認定協力団体 ・公益財団法人有隣会：岡山県倉敷市阿知2-25-33（大原孫三郎等の業績等の顕彰・研究組織） ・公益財団法人大原記念労働科学研究所（「労研」）：東京都渋谷区千駄ヶ谷1-1-12 桜美林大学内 ・法政大学大原社会問題研究所（「大原社研」）：東京都町田市相原町4342	
申請の趣旨	
<ul style="list-style-type: none"> ・大原孫三郎は明治・大正、昭和戦前期に活躍した社会派といわれる代表的な実業家の一人である。労働理想主義を掲げ、労働者の住居や職場環境の改善に努め、労働・社会・農業等の研究に貢献した。 ・1906年（明治39）に倉敷紡績株社長に就任。寄宿舎の改善、共済組合の設立など社内の改革を推進した。当時の分散式家族的寄宿舎設計図は労働遺産（「倉紡記念館」所蔵、以下同じ）に該当する。 ・1921年（大正10）、工場敷地内に「倉敷労働科学研究所」を設置、作業環境を大きく改善した。当時の粉塵・空気成分測定器、労働者の大型呼吸ガス分析器、肺活量計は労働遺産に該当する。 ・大原は労働・社会分野において顕著な社会貢献を行った。倉敷紡績株へ入社した後、石井十次の岡山孤児院を支援、また、大阪南部の貧民街に孤児支援・救済の「石井記念愛染園」を開設した。 ・「倉敷労働科学研究所」は、その後、労働生理、産業衛生等の研究を推進した。1923年（大正12）の「労働科学研究」第1巻1号、1926年（大正15）揮毫の研究所看板は労働遺産に該当する。同研究所は今日の「大原記念労働科学研究所」に発展した。 ・1919年（大正8）、大阪市の「愛染園」で大原社会問題研究所（現法政大学大原社会問題研究所）を設立した（後に市内に施設建設）。1919年（大正8）の「日本労働年鑑」第1巻第1号、1923年（大正12）の「大原社会問題研究所雑誌」第1巻第1号は労働遺産に該当する。また、「倉紡記念館」以外にある遺構等として、同研究所の大阪時代の跡地である大阪府夕陽丘庁舎にあるプレートと石碑、創設の場所である「愛染園」の100周年記念碑があり、労働遺産に該当する。 ・なお、1923年（大正12）に従業員向けの病院として開設した倉紡中央病院（現倉敷中央病院）では、労働科学研究所との連携のもと従業員の健康確保や治療などを推進した。 	
申請内容の現地確認の概要	
労働遺産PTメンバーは、2022年の5月と6月、大原孫三郎等の業績と足跡について、倉敷市の「有隣会」「倉紡記念館」、大阪の大原社研の跡地や愛染園の記念碑を訪問・調査し、現地確認を行った。	
申請対象の現況（写真等別途添）	① 倉敷の遺構、資料は倉敷市の「倉紡記念館」に所蔵され一般に公開されている。とくに、記念館第2室（「大正時代」）は「労働理想主義」関係を表示。 ② 大原社研の大阪時代の記念碑などは大阪市の天王寺の近くにあり一般アクセス可能
労使、行政、市民等の評価	大原は戦前を代表する社会派といわれる代表的な実業家として、事業と足跡は岡山県に限らずひろく全国に及び、労使団体はじめ各方面や内外での高い評価がある。

(別紙資料)

◎「労働理想主義」と「倉紡記念館」について

○「労働理想主義」：1888年（明治21）創業の倉敷紡績株式会社（クラボウ・本店：岡山県倉敷市）で1906年（明治39）に第2代社長に就任した大原孫三郎が掲げた理念。従業員の基礎教育や情操教育を重視した働く人の学校教育制度（尋常小学校や手工学校）の確立、旧来の飯場制度の撤廃、寄宿舎を大部屋から分散式家族的なものにするなど従業員の福利厚生改革、工場の作業環境の科学的な改善等のことを指す。「労働者の幸福を保障してこそ、事業経営に意義があり、その繁栄を到来せしめる」との考え方に基づくという。1914年（大正3）に始まる第一次世界大戦による好景気も背景に、戦前期のわが国での実業家による労働改善の最大事例の一つとなった。

○「倉紡記念館」：クラボウが1969年（昭和44）に会社の創立80周年を記念し、創業時の原綿倉庫を改造して設置したもの。企業の創設と発展について、日本の紡績産業の歴史を背景に企業活動の資料等を展示し、写真・模型・文書・絵画なども用いて紹介している。倉紡記念館は「登録有形文化財」（文化庁・1998年）、「近代化産業遺産」（経済産業省・2007年）、「日本遺産」（文化庁・2017年）に認定されている。労働理想主義の実践関係の資料は主として「第2室（大正時代）」に展示されている。なお、倉紡記念館（岡山県倉敷市）は公開施設であり一般の閲覧が可能である。



倉紡記念館入口



同第2室（大正時代）

◎工場の作業環境の改革と福利厚生の近代化

○工場の作業環境と作業内容の改善：大原は紡績工場の作業環境の改革のために、1919年（大正8）に、社会衛生の研究部門を設け、1921年（大正10）にはこれを「倉敷労働科学研究所」（現「大原記念労働科学研究所」）として、工場の空気汚染に関する測定器などの開発と活用をすすめた。下記の作業環境改善の労働遺産は、いずれも1920年代（大正10年代）に導入され、作業環境改善に大きな実績を上げるとともに、その成果は研究所の報告として公表された。

○福利厚生と労務管理の改革：大原は、労務管理や福利厚生が極めて不十分な旧来の飯場制度を廃し、寄宿舎は生活の改善や伝染病対策のため会社の直接管理とし、少人数で過ごせる家族的で分散型のものとした。また、新たに日用品分配所を設け、共済制度を創設するなど福利厚生の改善に努めた。

○作業環境改善や福利厚生改革についての労働遺産

当該の労働遺産は、申請書の「申請の趣旨」に記した通りであり、「倉紡記念館」の「第2室（大正時代）」に所蔵、展示されている。

○労働遺産該当所蔵物

（作業環境改善）粉塵・空気成分測定器、労働者の大型呼気ガス分析器、肺活量計。

（福利厚生改革）分散式家族的寄宿舎設計図（以上いずれも「倉紡記念館」所蔵）



「労研」開発の機器

寄宿舎の設計図等

諸資料

◎社会貢献の創立初期の資料、遺構等

○「倉敷労働科学研究所」：前述のとおり 1921 年（大正 10）に工場敷地内に「倉敷労働科学研究所」（現「大原記念労働科学研究所」）が設置された。所長には労働科学の創設者といわれる医学者・暉峻義等を迎え、1928 年（昭和 3）には、労働生理、産業衛生、社会衛生など 6 部門が置かれた。「労研」は作業環境改善で成果を上げた分野として、「女性年少者の徹夜作業」「工場内温湿度調整」「適性検査法」など 5 つを挙げている。これらについて、労研は約 400 の研究報告を刊行し、工場の作業環境改革にとどまらず、社会的な研究での成果をあげた。倉敷の研究所は 1936 年（昭和 11）に発展的に解散、東京に移転して「日本労働科学研究所」となり、今日に至る社会的事業の展開へと結びついた。なお、研究成果の「^{まんどう}労研饅頭」（高栄養佃食）は主食代用品として広く普及された（現在も愛媛松山市で製造販売）。

○「大原社会問題研究所」：1919 年（大正 8）、大阪市南部の貧民街にある福祉施設、「石井記念愛染園」（次項参照）において設立された。同研究所は、1920 年（大正 9）に、天王寺秋ノ坊に建設・移設し、研究活動を本格化させた。今日まで続く「日本労働年鑑」は、当時、「社会事業年鑑」、「社会衛生年鑑」との三本立てであった。研究所は 1937 年（昭和 12）に東京に移転したが、土地建物、図書の一部は大阪市に譲渡された（今日の大阪府立図書館の「大原文庫」となる）。移転後の大原社研は 1949 年（昭和 24）に法政大学に移り、1986 年（昭和 61）には財団法人を解散して法政大学の付置研究所となった。

○「石井記念愛染園」：1917 年（大正 6）、孤児救済、貧民療養、職業紹介などの救済事業を目的に、大阪市南部の貧民街に創設された。この施設は、大原の師ともいべき石井十次による岡山孤児院、同大阪分院の活動を踏まえ、石井の没後に、大原により開設された。今日では「社会福祉法人石井記念愛染園」等が石井と大原の想いを受け継いで活動を展開している。

○社会貢献についての労働遺産

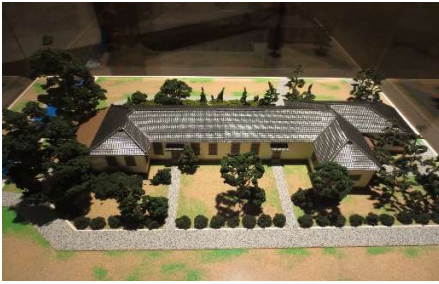
当該の労働遺産は、申請書の「申請の趣旨」に記した通りである。両研究所の研究資料や年鑑等は「倉紡記念館」の「第 2 室（大正時代）」に所蔵、展示されている。また、大原社研の大阪時代の記念碑等は大阪府の夕陽丘庁舎に、「愛染園創立 100 周年記念碑」は「社会福祉法人石井記念愛染園」が製作し、大阪市浪速区が所有、同区内にある。

○労働遺産該当所蔵物・遺構・記念碑

（労研）「労働科学研究」第 1 巻 1 号（1924 年（大正 13））・労働科学研究所看板（1926 年（大正 15））

（大原社研）「日本労働年鑑」第 1 巻第 1 号（1919 年（大正 8））、「大原社会問題研究所雑誌」第 1 巻第 1 号（1923 年（大正 12））（以上いずれも「倉紡記念館」所蔵）

・大原社研の大阪時代（1919 年（大正 8）～1936 年（昭和 11））の跡地を示す壁面プレートと記念碑（大阪府夕陽丘庁舎）、「愛染園創立 100 周年記念碑」（大阪市浪速区）。



工場敷地内の「労研」



大原社研記念碑（大阪市）



愛染園記念碑（大阪市）

◎大原孫三郎等の経歴

○経歴：大原は1880年（明治13）に備中倉敷に生まれた。1897年（明治30）から東京専門学校（現早稲田大学）で学び、足尾鉍毒事件の現場なども訪問、帰郷後、1901年（明治34）に倉敷紡績（株）に入社した。その後、石井十次の社会貢献の活動に感銘、1905年（明治38）にはキリスト教会で洗礼を受けた。なお、石井十次（1865年（慶応元）～1914年（大正3））は明治期の慈善事業家で、岡山孤児院を創設するなどの活動を行い、大原に大きな影響を与えた。

・1906年（明治39）に倉敷紡績（株）の社長に就任。労働理想主義を掲げ、前述のような進歩的な改革などを行った。1922年（大正11）には中国水力電気会社（現中国電力）の取締役役に就任、1926年（大正15）には倉敷絹織（株）（現クラレ）を創業、1930年には中国銀行を設立するなど、実業界で活躍した。

・社会貢献としては、前述のとおり、倉敷労働科学研究所、大原社会問題研究所等を創設した、これらについて、徳富蘇峰、安部磯雄、河上肇などのアドバイスも受けた。また、暉峻義等、高野岩三郎、森戸辰男などが研究所の代表や研究員等として協力した。大原は英国の社会派実業家であるロバート・オーエンの思想にも学んでいたといわれる。なお、暉峻義等（てるおか・ぎとう：1889年（明治22）～1966（昭和41））は医学・生理学を学び、労働科学研究所の所長を務め、わが国の実践的な労働科学の創設者といわれる。

・大原は1917年（大正6）には大阪で「石井記念愛染園」を創設。1923年（大正12）には倉紡中央病院（現倉敷中央病院）を開設し、従業員の医療を行うとともに一般にも解放、1914年（大正3）設立の大原奨農会農業研究所（現岡山大学資源植物科学研究所・倉敷市）では農業改革をすすめた。さらに、日本初の西洋美術中心の私立美術館として大原美術館（倉敷市）を設立するなど文化事業でも貢献した。大原は1939年（昭和14）以降、長男の大原總一郎などに主要な事業を引き継ぎ引退、1943年（昭和18）、62歳で倉敷に没した。

・なお、大原孫三郎の生涯全般の業績を調査、顕彰し、ひろく広報する団体に「有隣会」がある。大原は、1902年（明治35）に人々を啓発し公益を増進するため「倉敷日曜講演」を創設したが、顕彰事業は1968年（昭和43）に「有隣会」に改組され、2010年（平成27）には公益財団法人となっている。

（参考資料：『倉敷紡績百年史』、土屋喬雄『日本経営理念史 続』（日本経済新聞社、1967年）、城山三郎『わしの眼は十年先が見える 大原孫三郎の生涯』（新潮社、1997年）、『慈愛と福祉 岡山の先駆者たち』（山陽放送学術文化財団、2019年）、『大原孫三郎』（PHP研究所・2017年）。このほか、有隣会、倉紡記念館所蔵資料など。

以 上